

“ふじのくに” 士民協働事業仕分け結果（事業別個表）

事業番号	13	事業名	外国人児童生徒トータルサポート事業費
------	----	-----	--------------------

1 基本情報

実施日／班名	10月15日 第3班	時間	13:25 ~ 14:25
担当課名	教育委員会 学校教育課	事業費	74,000 千円

2 判定結果

仕分け結果		県民評価者判定内訳(人)					
県実施 (一部見直し)	判定区別	行政関与不要	0				
		行政関与必要	②①	国・市町実施	3		
				県実施	⑱	抜本見直し	0
						一部見直し	⑪
	現行・拡充	7					
判定理由別	仕分け結果と同一区分を判定した県民評価者の主な判定理由内訳(人、複数回答有)						
		・県の役割(市町、関係団体、県民等との役割分担)を見直すべき		6			
		・民間委託を進めるべき		4			
		・事業効果の把握・検証方法や目標の設定方法を見直すべき		3			
		・サービスの水準や対象者を見直すべき		2			

3 具体的な見直し・改善策又はその他意見

<p><国・市町実施></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国、県、市町の役割分担で明確な支援の基準を設けるべき。 ・ 市町の企業との連携と雇用と外国人の教育(日本語教育)の結びを見直して支援をするべき。 ・ 市町により母語の言語の偏りがあるので、市町の努力で取り組んでもらう方法やルールを決めてもいいのではないかな。 ・ 外国人を雇用する企業から助成金を出して貰うべき。 <p><県実施(一部見直し)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域との関わりを考慮して、地域でできるところは任せてもよいのではないかな。 ・ 具体的基準を設けた方がよいと思われる。 ・ 大変必要な事業だと思いますが、民間等の協力でたくさんの言語を扱える人材が集められないだろうか？ ・ 日本語が分かる、話せるが基本。そのためプレクラス制度の拡大、バックアップがますます必要となる。 ・ NPO を含め、人材の確保が必要。特に静岡県の場合、自動車関連企業の多い市町に外国人が集中しているので、県としては全面的にバックアップする必要があると思う。 ・ 子どもの方が言葉を覚えやすく、むしろ親の方が言葉が覚えられず問題あり。親の教育も必要と思う。 ・ トータルサポート事業費について相談員の方の仕事の内容を明確にすべき。 ・ 教育プラス生活面の総合的支援が必要ではないかな。 ・ 以前ボランティアで焼津市に住むペルー人女性のサポートをしたが、小学生、中学生の子どもがいて、学校への対応も私一人で言い、とても大変だった。外国人に生活全般のサポートが必要だと感じた。

- ・ 適応指導は教育と生活全般、医療など包括的に考えなくてはならないと思う。教育委員会より民間ボランティアのほうが詳しく知っていることもあり、民間との連携が必要ではないか。
- ・ NPOなどと連携すべき。

<県実施(現行・拡充)>

- ・ 言語の違いによって、教育を受ける権利が奪われてはならないという視点から、すべて公(県・市町)に頼るのではなく、共助(ボランティア)、自助(御家族など)も含めて対策を講じていただければと思う。
- ・ 市町だけでは大変なこともあるので、県と市町の役割をはっきりさせて、子どもたちやその家庭への支援をしてほしい。
- ・ 県から来ていただく相談員さんのおかげで本校の子どもも家庭や本人への対応がスムーズに行われており、大変助かっているが、年3回(母語で支援)なので効果が低いと思う。母語を話せる方(ボランティアを含む)を市町と連携してリストアップし、時間的にも内容的にも充実させていただきたい。
- ・ 外国人児童生徒が安定して過ごせることは、他の児童生徒への波及も大きいと感じている。
- ・ 外国人児童生徒トータルサポートをいっそう充実させてもらいたい。ただし、県と市町との役割分担について、継続的に見直しする必要がある。
- ・ 成果指標として、対象者のみの指標がほしい。
- ・ 帰国児童生徒と外国人労働者児童生徒と区別して対応すべき。
- ・ 市町と協力しながら県として支援し続けてほしい。